

「7.11豪雨災害」20年事業糸魚川市シンポジウム

日時：平成27年7月11日(土) 13:30～16:30

場所：新潟県糸魚川市 糸魚川市民会館 参加者600名



主催者：米田徹糸魚川市長



根知小学校の発表



パネルディスカッションの状況

主催：新潟県糸魚川市

国土交通省松本砂防事務所、新潟県

来賓：国土交通省北陸地方整備局 河川部長 入江 靖

シンポジウムの内容：

1. 根知小学校(全校児童28名による発表)

「ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育」

2. 基調講演「7.11水害の教訓」

講師 政策研究大学院大学 水山高久 特任教授

3. パネルディスカッション

「よみがえった!清流姫川 伝えたい!未来への記憶」

○コーディネーター

政策研究大学院大学 水山高久 特任教授

○パネリスト

- ・小学校校長 ・地区区長
- ・フォッサマグナミュージアム学芸員
- ・新潟県内同地域関係機関

○体験者の発表(3名)

- ・男性(当時孤立地区の区長)
- ・男性(当時糸魚川市消防団分団長)
- ・男性(当時避難先地区の区長)

■ 小学校の発表

地域と学校が連携した地域防災教育についての発表があり、地域防災マップを作成したり、安否札をつくり地域の各世帯に配付し活用していることが報告された。最後に学校で作った「コドモ防災ソング」が披露された。

■ 基調講演

姫川を挟んで東側と西側の地質の違いや洪水時の土砂災害の特性について説明があった。参加者は土砂災害の要因や洪水時の状況について理解を深めることができた。

■ パネルディスカッション

体験者より、電話、電気が途絶え、道路も寸断され孤立した様子や孤立した住民などを消防団が小学校へ避難させた時の様子などが報告された。

パネリストからは、日頃の準備や防災訓練、地域の助け合い、普段からの学校と地域つながりの大切さ等についてコメントがあり、コーディネーターより、地域の特徴や地区での災害等の伝承を知り、工夫を加えながら防災訓練を継続することが大切であるとのまとめがあった。

■ 糸魚川市長のコメント

災害を止めることはできない。恵まれた自然環境が時に牙をむくことを自覚し、自分の身を守ることを基本に、地域一体となって避難することが大切である。

◆平成7年7.11豪雨災害の状況

平成7年7月11日から12日にかけて大雨で糸魚川市、小谷村、白馬村などで土砂崩れなどによる被害が多発し、糸魚川市では、家屋13棟が全壊し、半壊も4棟に及び、国道148号などの道路寸断によって孤立集落が発生し、140世帯、473人に避難勧告が出た。また、姫川の氾濫でJR大糸線の橋など73カ所が被災した。孤立状態となった平岩地区では県防災ヘリコプターなどで住民ら530人が救助された。これだけの大災害にも関わらず、幸いにも死者・行方不明者はなかった。